

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「自ら気づく人を育てる」を目標に掲げ、「茨西 PRIDE」のもと生徒の志をカタチにするため、家庭と地域を巻き込んだ教育活動を展開することで茨西ブランドを確立する。

1. 確かな学力を基礎に、志高い進路目標を実現する生徒を育成し、中堅大学に進学実績を持つ学校をめざす。
2. 英語教育推進事業をもとに、引き続き指導法を研究して生徒の英語によるコミュニケーション能力を育成し国際社会に通用する人材を育てる。
3. 生徒会活動・部活動等の充実を図り、規律規範意識を高め、健康で心豊かな人間を育成する。
4. 学校と家庭・地域をつなぐ活動を通して、生徒自身の誇りと母校愛を醸成するとともに、社会を創っていく態度を涵養する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 生徒の確かな学力の育成と向上のために、興味・関心を引き出せるように授業の改善・充実に努める。

ア 生徒による授業評価と保護者や中学生による授業公開のアンケート結果を効果的に活用するとともに、教員相互の授業見学を組織的に取り組み、ICTを活用した授業の目的を明確し、機器をいかに使いこなし教育効果をあげるかについても研究をすすめる。

※生徒向け学校教育自己診断の授業でのコンピュータ等の活用(平成25年度69.6%)を、平成28年度には85%以上にする。

※生徒向け学校教育自己診断の他の先生が授業を見学に来る(平成25年度63.2%)を、平成28年度には75%以上にする。

(2) 英語教育推進事業をもとに、英語によるコミュニケーション能力を育成する。

※海外修学旅行を継続して行う。

※英語を活用できる場面が増えたと実感できるよう、語学研修等の体験機会を増やす。

2 志高い進路目標を実現する生徒の育成

(1) 自分の将来を具体的に設計し、その実現に積極的に取り組むという将来のキャリア形成を自ら考えさせ選択させる能力を育成する。

ア 進路フィールドワークや高大連携によるキャリアサポートの更なる充実を図る。

※教育産業の講習、勉強合宿、キャリア教育連携授業、進学講習会等の年間参加者数(平成25年度 300名)を、平成28年度には500名をめざす。

※進路実現率(進路実績/3年4月時点の進路希望)90%以上(平成24年度 89.3%、平成25年度 87.9%)

3 安全安心で魅力ある学校づくり

(1) 基本的生活習慣の確立と定着を図ると共に生徒の規範意識を醸成する。

ア 挨拶ができる、遅刻をしない、通学マナーの向上など基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成を継続して行う。

※生徒向け学校教育自己診断の生徒指導に関するより強い肯定率(平成25年度11%)を、平成28年度には20%以上にする。

(2) 生徒会活動・ホームルーム活動・部活動・学校行事等の充実を図り、自己有用感の醸成やコミュニケーション能力の育成を図る。

※学校教育自己診断の「学校へ行くのが楽しい」の肯定率(平成25年度生徒74.4%、保護者73.1%)を、平成28年度には85%以上にする。

(3) 耐震工事に伴う校舎の使用制限に対して、生徒が安全で安心できる学習環境の維持に努める。

4 学校・家庭・地域の連携強化

(1) 「中高連携」、「小高連携」の取組を進めるとともに「地域交流協議会」との連携を継続して行う。

ア 幼保小中等への生徒による出前授業の実施や地域行事等への参加協力者数や回数を増加させる。

イ 卒業生・保護者・地域の人材をボランティアとして、教育活動や部活動に活用できるような教育コミュニティをつくる。

(2) 学校と地域をつなぐ望ましいPTA活動を展開する。

ア 公開授業や体育祭・文化祭等の学校行事への参加を積極的に支援し、学校・家庭・地域の交流を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 生徒の確かな学力の育成と向上のために、興味・関心を引き出せるように授業の改善・充実に努める。</p> <p>(2) 英語教育推進事業を基に、英語によるコミュニケーション能力を育成する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・自己申告票の授業力の目標設定で、強化したい項目を明記させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートで特段に高い結果が出た授業者の授業を積極的に公開し、授業力向上に取り組む。 教員相互の授業見学を年間1回以上実施し、見学時には共通の授業観察シートを使用する。また、「茨西スタンダード」の確立に向け授業者との意見交換を行う。 ICTを活用した授業（プロジェクター、ビデオ、パワーポイント等）の実施計画を職員会議等で周知し授業見学後、情報交換の機会を設ける。 <p>(2)</p> <p>ア・授業やHRで、海外修学旅行先の情報（英文）収集に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を活用した更なる授業実践に取り組む。 	<p>(1)</p> <p>ア・授業アンケートで、授業内容に興味関心をもつことができた項目の肯定率 80%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断の「他の先生が授業を見学に来る」を 65%以上(平成 25 年度 63.2%) 生徒向け学校教育自己診断の授業でのコンピュータ等の活用を 75%以上(平成 25 年度 69.6%) <p>(2)</p> <p>ア・英検受験者数 120 名以上(平成 25 年度 73 名)</p> <ul style="list-style-type: none"> 38 期生の修学旅行満足度 90%以上 タブレット端末を活用 40 時間以上 	
2 志高い進路目標を実現	<p>(1) 自分の将来を具体的に設計し、その実現に積極的に取り組むという将来のキャリア形成を自ら考えさせ選択させる能力を育成する。</p>	<p>ア 生徒の進路意識を向上させるため1、2年でフィールドワーク、分野別進路説明会、進路ガイダンス等の取組を継続して行う。</p> <p>イ・大学でのキャリア教育プログラムへ参加させる。</p> <p>ウ 教育産業の講習、勉強合宿、校内での進学講習等の取り組みを継続して行う。</p> <p>エ 学年ごとの成績、進路希望等のデータ蓄積を更に進め、学力実態調査結果をもとに進路実現に取り組む。</p>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断の進路指導に関する項目の肯定率 10%up(平成 25 年度平均 70%)</p> <p>イ 延べ参加生徒 40 名以上</p> <p>ウ 延べ参加生徒 350 名以上</p> <p>エ 進路実現率（進路実績/3 年 4 月時点の進路希望）90%以上</p>	
3 安全安心で魅力ある学校づくり	<p>(1) 基本的生活習慣の確立と定着を図ると共に生徒の規範意識を醸成する。</p> <p>(2) 生徒会活動・ホームルーム活動・部活動・学校行事等の充実を図り、自己有用感の醸成やコミュニケーション能力の育成を図る。</p> <p>(3) 耐震工事に伴う校舎の使用制限に対して、生徒が安全で安心できる学習環境の維持に努める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 首席を生活指導部長に任命し、学年主任との連携を強化することで、基本的生活習慣の確立と規範意識の更なる醸成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動を継続して行う。 遅刻者減少のために段階的指導を継続して行う。 関係機関と協力した、交通安全指導を継続して行う。 <p>(2)</p> <p>ア 「茨西 PRIDE バッチ」の授与による、生徒表彰を継続して行う。</p> <p>イ 人権ホームルーム等を通して、個々の生徒が自尊感情を高めるとともに、他者を思いやる気持ちを育む。</p> <p>ウ 生徒支援カードを活用し、特性のある生徒の支援を行う。</p> <p>(3)</p> <p>ア・耐震工事の実施に伴う、学校環境の安全確保に努める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア生徒向け学校教育自己診断の生徒指導に関する項目のより強い肯定率 15%以上(平成 25 年度 11 %)</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻指導者をゼロにする（平成 25 年度 9 人) PTA 実行委員会、学校協議会、地域交流協議会等での肯定的意見 <p>(2)</p> <p>ア 5 名程度をめどに授与</p> <p>イ 人権学習に対する肯定率 75%以上</p> <p>(3)</p> <p>ア・学習環境に対する苦情件数 3 件以内</p>	
4 学校・家庭・地域の連携強化	<p>(1) 「中高連携」、「小高連携」の取組を進めるとともに「地域交流協議会」との連携を継続して行う。</p> <p>(2) 学校と地域をつなぐ望ましい PTA 活動を展開する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 「発達と保育」の子育てネットワークとの連携授業を継続して行う。</p> <p>イ 「地域交流協議会」の内規を定め、学校行事や部活動との連携を通して地域の人材を活用する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・メルマガ、学校ホームページ、地域の広報誌などを活用し学校教育活動の情報発信を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「IBANISHI NEWS」を自治会等の広報を通じて配布する。 <p>イ・PTA 便りを活用し、各委員会の取組を紹介するとともに PTA 協議会の情報も周知する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・連携授業の参加者 50 名以上</p> <p>イ・延べ支援日数 20 日以上</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> PTA 実行委員会、学校協議会、地域交流協議会等での肯定的意見 	